

1. 第 2 回専門部会議事要旨等

(1) 第 2 回整備基本計画専門部会(平成 23 年 10 月 31 日開催)議事要旨

1. 第 1 回専門部会でのご質問に対する回答等

- ・メタン発酵施設で作る電気量よりも使用電力量の方が多くなる可能性があるため、アンケートにより町田市の場合はどうなるのかというエネルギー収支のデータに基づいて、処理方式を最終的に判断すべき。
- ・処理方式の評価には多様な判断基準があるため、評価方法そのものを本部会でしっかり議論する。
- ・その施設単独のエネルギー収支だけで評価するのではなく、生ごみの堆肥化に代表される個人の取組など、基本計画で挙げられている資源化ということを前提に取り組みべき。
- ・メーカーアンケートと並行して、実績のあるメーカーに問題点や良い点を聞くことで、採用判断を早めることができる。
- ・各施設でどの廃棄物をどの程度処理するかという廃棄物のフローや処理方式全体に関する事項を 12 月、1 月に決定する。各施設の具体的な内容を 2012 年 2 月から 4 月にかけて順次検討し、5 月頃に処理方式の最終決定をすることとする。

2. 処理方式について

- ・エネルギー回収推進施設の選定基準は、「安定稼動」をもっとも重視している。それゆえ、今までの実績から熱回収施設であるごみ焼却施設とガス化溶融施設が候補である。

3. メーカーアンケート項目と内容について

- ・アンケート用紙には、物質収支、要するにエネルギー収支やメタンの湿式か乾式の条件、反応率、滞留時間も出して欲しい。

①環境に対する規制について

- ・規制について、本部会でしっかり議論したい。「CO₂排出量」も含め、現状の施設との比較を行いたい。
- ・自主規制値は、煤塵は 0.005g/m³_N、硫黄酸化物(SO_x)は 10ppm、塩化水素は 10ppm、窒素酸化物(NO_x)は 10ppm、ダイオキシンは 0.01ng-TEQ/m³_Nとする。

②資源ごみ処理施設の立地について

- ・資源ごみ処理施設の整備はどのように行うのか? 「ごみメタン化施設」「熱回収施設」と「不燃・粗大処理施設」が一箇所に集約整備されるため、これにあわせて全てを一箇所に集中させるのは避けるべきではないか。
- ・施設を受け入れる地域の住民への配慮が必要である。
- ・資源ごみ施設は、他の 3 つの施設とは分離して建設するものとし、1 箇所に整備した場合と 2 箇所に整備した場合の双方について検討を行う。

③施設の大きさについて

- ・アンケート調査において、施設の基数、大きさ、建物高さなども把握してほしい。

以上

1. 第1回専門部会でのご質問に対する回答等

- ・第1回施設整備基本計画検討専門部会では、「焼却炉とメタン化施設は、一体に整備するのが合理的である。」という考えが提示された。

2. 建設候補地選定の手順と作業計画（スケジュール）

①補助金申請時期の変更に伴うスケジュールの変更について

- ・2013年に国に高効率型発電の補助金の交付申請をするために、2012年12月には循環型社会形成推進地域計画を国に提出する必要がある、そのため地域計画の作成・提出は当初の予定より一年前倒しすることとなった。この地域計画に載せる施設の情報は施設の大まかな規模、台数、場所によいため、建設候補地の選定の時期は、当初の2012年2月から2012年4月に遅らせてよいこととなった。

②二次選定以降のスケジュールについて

- ・一次選定までは期間を短く取り、二次選定や最終決定に時間をかけるというようなバランスが必要である。
- ・今のスケジュールでは4月まで両部会が並行して議論しているが、2つの専門部会を1つにしてそこで検討委員会としての結論を出す場を設けるべきである。

③広報について

- ・広報の主体は検討委員会とすべきである。意見募集の内容も、候補地選定だけでなく施設のあり方についても聞くべきである。
- ・一次選定の段階からプロセスを透明化するという観点から、出来るだけ早く広報することが大事である。詳細な内容は環境広報ECOまちだに掲載するということもありえる。

3. 建設候補地一次選定（案）

- ・町田市防災課から、断層が町田市内を通っている可能性があり、調査をするということを知った。断層がないという説明は防災課の話と矛盾する。
- ・井戸があれば確認をしてほしい。
- ・本資料を公開する場合は、一次選定の条件に、誤解が生じないようにしっかりと説明を加えるべきである。
- ・一次選定に関するマップ等の資料は公開すべきである。このような手順で考えているということを見せる必要がある。公開しなければ市民がプロセスに対し疑心暗鬼になる可能性がある。

4. 関連して取り扱う事項について

- ・周辺の環境、景観、付帯機能については、ある程度地区が決まってから、地区の人たちが何を望むのかを踏まえて議論をすべきではないか。
- ・施設ができて周辺環境がこんなによくなるということも、住民に周知すべきである。
- ・地元への環境配慮もしっかりとしていく必要がある。
- ・施設設置による、付帯機能や付随する効果といったメリットとデメリットを両方示していくべきである。
- ・迷惑施設とはいえ公共施設なので、住民の負担がある場合にはケアが必要である。

以上

広報と意見募集のスケジュール

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会	建設候補地選定専門部会	24日:第2回専門部会 (1)選定の手順と作業計画(広報と意見聴取について) (2)一次選定(案) (3)関連して取り扱う事項に関する説明	25日: ○参考事例施設見学会	14日:第3回専門部会 ・一次選定結果、二次選定結果(案)に対する意見募集のやり方について	12日:第4回専門部会 (1)意見募集の結果について (2)一次選定 (3)二次選定(案) (4)候補地選定後、実際の施設の建設までに実施する「生活環境影響調査」について、情報を共有する。		下旬:第5回専門部会 (1)二次選定 (2)候補地選定に並行し、「周辺環境・景観への配慮」について、施設建設時に必要な対策等をまちづくりの観点から考え、情報を共有する。 (3)三次選定評価(案)	下旬:第6回専門部会 ・建設候補地の選定		第7回専門部会 ・周辺施設の整備の方向性について、詳細を詰める事項を確認、整理
	整備基本計画専門部会	31日:第2回専門部会 (1)処理方式について (2)メーカーアンケート項目と内容検討		8日:第3回専門部会 (1)メーカーアンケート結果整理・比較検討 (2)処理方式検討	19日:第4回専門部会 ・各施設の受け入れ量や処理方式全体に関する事項の決定 ・エネルギー回収施設計画概要策定		第5回専門部会 ・各施設の具体的内容の決定 ・ごみメタン化施設計画概要策定		月上旬:第6回専門部会 ・資源化施設処理フロー・処理方式決定	
	検討委員会 (両専門部会合同)				26日:検討委員会(両専門部会合同) ・一次選定結果、二次選定結果(案)に対する意見募集のやり方の確認				下旬:検討委員会(両専門部会合同) ・建設候補地選定最終結果及び処理方式等に対する意見募集のやり方の確認	
建設候補地選定に関する意見募集	広報	(1)自治会連合会を通じた周知	● 11/7							
		(2)広報まちだ	● 11/11							
		(3)ホームページ	● 11/11							
意見募集	募集期間		← 11/25 ~ 12/8							
	とりまとめ			← 12/5 まで						
一次選定結果、二次選定結果(案)に関する意見募集	広報	(1)地元との意見交換(委員が説明)								
		(2)自治会連合会を通じた周知					● 2/6or7			
		(3)広報まちだ(毎月1日、11日、21日に発行)					○ 2/1頃 原稿締め切り ● 2/21			
		(4)ホームページ					● 2/21			
		(5)まちテレ(隔週で新作に更新)					← 2/17 ~ 3/1			
意見募集	募集期間						← 3/11 まで			
	とりまとめ							←		
建設候補地選定最終結果及び処理方式等に関する意見募集	広報	(1)地元との意見交換								●
		(2)自治会連合会を通じた周知								●
		(3)広報まちだ								●
		(4)ホームページ								●
		(5)まちテレ								●
	意見募集	募集期間								
	とりまとめ									←